

**R7
負担金**

**労働者協同組合労協センター事業団
(実施団体) 多機能福祉施設こもれび**

×

学校教育課

3年目

**行政
提案型**

**事業名 | 学びの下支えによる、子どもの意見表明支援に向けた新しい実践 ~子どもの視点
に立った貧困・ケアラー支援、いじめ防止等への対話的アプローチ~ (負担金額 500,000 円)**

【事業の目的】

- ・子どもの学びの場面に世代の近い大学院生等が加わり、対話的なアプローチをすることで、子どもは受け止められることにより日ごろの不安が和らぎ、存在感覚が根つき、声を発しやすくなる。最終的には子どもが意見表明できるようになることを目指す(根の力)。
- ・結果として、学校が子どもたちにとって安心安全な居場所になる(副産物)。

【事業の内容】

- ①学校内居場所「ふらっとるーむ」(モデル校の富士見小内)の運営
⇒こもれびや公益大生がスタッフとなり、年間で14回開催した。



- ②対話プログラム「RJ サークル」の実施

⇒モデル校の1・2年生全クラスを対象に年2回開催したほか、出前講座として、亀ヶ崎小・十坂小・琢成小・浜中小・第二中学校でも実施した。

- ③学校・地域での「対話」への理解促進

⇒開かれた対話(オープンダイアログ)研修会(支援者向け)2回開催

修復的対話(RJ)を取り入れたいじめ研修会(モデル校教職員対象)開催

修復的対話(RJ)を取り入れた研修会(教頭会にて)開催

【事業の成果】

- ・モデル校でのRJサークル実施後のアンケートにより、対話が行えているかの指標(問「自分の話をよく聞いてもらえたと思いますか」「相手の話を聞くことができましたか」)で、初回と最終回の数値を比較し、伸びが確認された。



KOMOREBI_HINATA

【事業の目的】

- ・希少・難治性疾患(以下、RD)は、患者数の少ない「まれ」な病気で、治療法や治療薬がないことが多く、約 6,000 種類の疾患があると言われている。病気そのものへの認知度が低く、周囲の理解不足や誤解、偏見、適切な配慮が十分でないなどの課題がある。
- ・酒田市内でも RD 当事者の就労に適切な対応がなされている企業はまだ少なく、市民への RD の周知も十分とはいえない。市民に対しては RD についての理解を深め、特性に応じた適切な配慮を学ぶ機会を、企業には障がい者雇用制度外での合理的配慮を学習する機会を提供する。

【事業の内容】

- ①企業内インクルーシブ体験 6/15(なかまちホール) 障害平等研修、手話ワークショップ等
高校生・専門学校生・企業関係者・市民等 約 50 名
- ②キックオフイベント 7/2, 3(酒田西高等学校) RD についての講演、ディスカッション等
高校生のべ 80 名
- ③企業内 RD 環境セミナー 7/29(酒田市公益研修センター)
先進企業事例報告、RD 就労と支援法の講義等
高校生・企業や医療福祉関係者・市民等 約 40 名
- ④企業内 RD 環境フォーラム 1/31(酒田西高等学校)
病気と就労の両立についての講演・パネルディスカッション、グループディスカッション等
高校生・企業関係者・当事者・支援者・市民等 約 40 名
- ⑤六角灯台 RDD 色ライトアップ 2/20~3/1
- ⑥中高校生医療福祉カフェ 2/27(日和ベーカリー&カフェ) 高校生・市民 約 15 名



【事業の成果】

- ・企業関係者や医療福祉関係者が RD に関わる法的な裏付けや、合理的配慮、先進企業の取り組みなどを学ぶ機会を提供することができた。また、ライトアップ酒田西高校 HP 内等も通じ、一般市民にも RD を知ってもらえる機会を作ることができた。

